

難波西鶴と海ノ道

【63】

森田 雅也

長崎の話を続けてきましたが、「海ノ道」をたどれば長崎の向こうには南九州があります。

その先端は沖縄・鹿児島ということになりませんが、西鶴のころはもちろん、琉球・薩摩という呼称です。琉球王国は薩摩に属していましたが、それについて述べるべく、以下です。

「へりゅうきょう」の名が最初に現れたのは、『隋書』東夷伝中の「流求国」である。(中略) ……薩摩藩

は嘉吉元(1441)年に室町将軍が琉球を島津氏に与えたといういわゆる嘉吉の附庸(※9代・島津忠国が6代将軍足利義教の弟・大覚寺義昭を謀反の隙で

成敗したとき、義教が褒賞として忠国に琉球を与えたとする説)を本に、豊臣秀吉の朝鮮の役に命ぜられた賦役(課せられた労働と

地代)を実行しなかったこと、徳川家康に漂船救助の謝恩使を送らなかつたこと、薩摩に礼を失したこと

などの理由により、慶長14(1609)年、琉球を侵

略した。けれどもこれは進

買貿易(周辺国が貢物を捧げること。この場合は対中国)の利益を得ることが真因と考えられている。これによって琉球国王に知行目録を与え、大島諸島を除いた琉球諸島8万9千石を王の所領とし、諸島からの貢租を定めた。さらに起請文を出させ、掟十五条を強制した。その中には、『薩摩御下知のほか、唐へ眺物(注文して作らせた物)停止』『他国へ商船派遣一切禁止』の項があった。進

買貿易は薩摩藩の支配するところとなったのである。琉球は薩摩藩の附庸国(属国)となったのであるが、中国に対してはこの関係を極力秘匿して進買貿易を続けなければならなかつた

『国史大辞典』より。□

小さな海洋王国 悲哀の歴史

長い引用になりましたが、これでも一部の説明でしかありません。要するに琉球王国は、江戸時代初期に徳川幕府によって、本意にも薩摩藩に組み入れながら、その後もひそかに中国にも貢ぎ物を行い、庇護を受け、進買貿易を行うという、鎖国体制を破った独自の交易方法をとっていました。

これによって琉球の物産は薩摩船によって大坂などに運ばれ、盛んに交易されることとなります。その一方で新しい徳川将軍に代わるたびに慶賀使を送るなど複雑な立場を維持します。いつ、どこから攻められるかもしれない、小さな海洋王国としての悲哀の歴史がそこにありますね。

(関西学院大学文学部文学言語学科教授)

独自の交易した琉球